



吉田 耕一議員(自民党市政会)

Q&A 一般質問

一般質問は市政全般にわたり、市長その他執行機関に対し、事務の執行状況や将来への方針等について、所信を質したり、報告や説明を求めたりするために行うものです。3月定例会でのみ所属3人以上の会派が代表質問(時間120分)を行うことができます。今定例会では2会派が代表質問を行い、3名の議員が個人質問(時間60分)を行いました。

※質問の要旨を質問順に掲載しています。(代表質問は4~5ページ、個人質問は6~7ページに掲載しています)

代表質問



よしだこういち
吉田 耕一議員
自民党市政会



坂出市の将来像は

Q 市長は坂出市にどのような特徴を持たせ、坂出市の将来像をどのように描いているのか。

A 本市が有する高いポテンシャルを生かし、日々の暮らしの中で、満足感や幸福感を感じられるような「居場所」や「機会」を創出させ、価値観の多様性や居心地のよさ、安全性、環境への優しさなどを実現することにより、「働くまち」と「住むまち」を高い水準で両立させる必要があります。
そのため、坂出駅周辺の再整備をはじめ、あらゆる施策を有機的に連動させることにより、子育て世代をはじめ多様な世代が日常的に集い、交流し、幸せを実感できるような「みんなのココ」よさがかなうまちの実現が本市の目指すべき方向性と考えています。

(市長)

商店街のあるべき姿は

Q アーケードが撤去され、商店街を車両が行き交うようになるといったとき、商店街はどのように変化していくか。市長が考える将来の商店街の姿は。

A 車両が行き交うようになれば、利便性が高まり、沿線においてマンションやアパート等の住居の建設が加速するとともに、既存の商店に対する需要も高まることから、新たな店舗の進出につながり、新しい形での商店街の再生、これからの担う若い世代に選ばれるような中心市街地の復活が促されるものと考えています。
商店街が存在するエリアについては、本市がこれから新しいまちづくりを進める上でも、重要なエリアであることから、多様な主体との連携や協働を行い、商店街に人の循環を呼べるようなエリアに変えていき、そのことよって、民間の需要が生まれ、投資も生まれ、土地が動いていくことで商店街が変遷していくと考えています。

(建設経済部長)

複合施設に集約する可能性のある公共施設は

Q 複合施設に集約される公共施設はどのようなものが望ましいと考えているか。

A 坂出駅前の拠点施設整備については、子供から高齢者までの幅広い世代が日常的に利用する図書館機能に、子供たちが安心・安全に遊ぶことができる子育て支援機能、多くの人が集い、交流できる市民活動の拠点機能、また、市外からの来訪者が市内の魅力や情報が得られる拠点機能を付加することで、全ての人のとって「まちのリビング」と呼べる居場所の実現につなげていきます。これらの機能に対し、集約が想定される既存施設は、大橋記念図書館や貸館施設である勤労福祉センター、市民ふれあい会館、中央公民館等が考えられます。
複合施設の整備に当たりましては、求められる機能について、類似する既存の公共施設を再編し、機能を集約・複合化することで、効果的な整備や相乗効果の創出、財政負担の最適化を図っていきます。

(市長)

質問の主な項目

- ・ 市民生活の利便性向上について
- ・ 市立病院の運営・経営について

など